



ハートポケット倶楽部



いばらき未来基金

いばらき未来基金 冠助成事業

2013年度花王・ハートポケット倶楽部 地域助成事業

報 告 書

花王・ハートポケット倶楽部

いばらき未来基金運営委員会





(いばらき未来基金 冠助成プログラム)

花王・ハートポケット倶楽部 地域助成のご案内

あらゆる人の居場所と出番をつくる取り組みに助成します

茨城県新しい公共支援事業のモデル事業として昨年誕生した「いばらき未来基金」は、地域の市民、企業などから寄せられた寄付を、新しい公共を広げる市民活動に役立てるための助成を行います。

このたび、花王グループ社員による社会的支援を目的とした「ハートポケット倶楽部」会員の皆様のご寄付を原資として、第一回となる冠助成を実施することになりました。

趣旨

誰もが住みやすい地域をつくるために、あらゆる人の居場所や出番を増やす、という「茨城県の新しい公共の指針」にそった市民団体の取り組みに募り、応援して「茨城の未来づくり」を広げるために、本助成を行います。

主催者・運営者

主催： 花王・ハートポケット倶楽部、花王株式会社

企画・運営協力：認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ いばらき未来基金

助成事業

自助グループづくり支援事業

課題をもつ人やその家族や仲間が、課題を共有しながら、仲間を増やしたり、課題解決に役立つ活動を行うことを、グループの立ち上げ支援も含めて応援します。

(例 家族の病気や介護、子育て、仕事などに関する悩みや、震災で故郷を離れたなど、日頃孤立しがちな人によるサロン、体験の共有や発信、グループづくり、など)

「みんなの社会」モデルづくり支援事業

失われつつある人や地域の絆を創るために、従来の組織や活動に参加しにくい人が参加しやすくなるように工夫した取り組みや、地域に交流の拠点をつくる活動、組織を超えた交流や新たな連携などの活動に助成します。

(例 空き家、空き校舎などを活用し人が集える場づくり、地域で仕事やボランティアしたい人の活躍の機会づくり、異文化や異業種の交流による地域づくり)

助成対象団体

自助グループづくり支援事業 1 助成 5 万円 (4 団体)

生きづらさを感じている人が主体となった活動の実績または計画があり、自分たちの課題を発信したり、仲間を増やそうとしているグループ。

「みんなの社会」モデルづくり支援事業 1 助成 15 万円 (2 団体)

活動実績や決算や役員、規約に関する情報を公開することができる団体で、活動実績があること。

「あらゆる人に居場所や出番をつくる」、「人や地域の絆をつくる」、「協働で地域をよくする」など

「新しい公共の考え方」にそった取り組みの計画を有している団体。

両助成とも助成対象に該当し、平成 25 年度中（平成 25 年 7 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日）に実施する活動にかかる費用を対象とします。

申込方法

助成を希望する団体は、別に定める申請書類を、茨城 NPO センター・コモンズあてに、郵送、FAX またはメールにてお申し込みください。

申込期間

平成 25 年 4 月 25 日（木）～平成 25 年 5 月 24 日（金） 当日消印有効

選考方法

第 1 次審査（書類選考）いばらき未来基金運営委員会が設ける選考委員会で審議します。

第 2 次審査（投票選考）花王ハートポケット倶楽部の投票により助成先を決定します。

※ 『茨城県新しい公共推進指針』を具体化と、人の絆の広がり重視して選考します。

※ 必要に応じ、助成申請者に対し提出資料の追加あるいは訪問調査を行うことがあります

助成金の交付

平成 25 年 7 月上頃に贈呈式を実施します（会場は水戸市内）。その後、団体口座に銀行振込により交付します（個人口座にはお振り込みできませんのでご了承下さい）。

活動報告書の提出

助成を受けた団体は、日々の活動状況をいばらき未来基金事務局に随時報告するほか、活動終了後、指定の活動報告書をご提出いただきます。

申請先・お問い合わせ先

認定特定非営利活動法人

茨城 NPO センター・コモンズ いばらき未来基金

〒310-0022 茨城県水戸市梅香 2-1-39 TEL 029-300-4321 Fax 029-300-4320

<http://www.ibaraki-mirai.org/> E-mail info@npocommons.org



いばらき未来基金

助成対象となった事業

コース	団体名	代表者 役職名	代表者	事業名	助成 金額
自助グループ づくり支援事業	手話サークル「あゆみ」	代表	菊田 健次	手話サークル「あゆみ」	5万円
「みんなの 社会」モデル づくり支援事業	とりで障害者協働支援ネットワーク	代表	染野 和成	笑顔のひろばフェスティバル	15万円
	清水洞の上自然を守る会	会長	鈴木 孝雄	行政とのパートナーシップで 管理運営する自然公園	15万円
	NPO 法人 動物愛護を考える 茨城県民ネットワーク	理事長	坂本 真子美	小さい命をつなぐモデル地域 作り	15万円



平成 26 年 9 月 2 日

茨城助成基金冠プログラム 茨城 NPO[コモンズ]

「花王・ハートポケット倶楽部 地域助成」 活用報告

手話サークル「あゆみ」 代表 菊田健次

先ずは、今回の助成金(50,000 円)をいただきまして誠にありがとうございました。
きっちり下記のごとく活用させていただきました。本来は 26 年 3 月を持って資金
難の為に「あゆみ」を解散すると(私のサークル加入時 1 年後に解散)聞かされてお
りましたが、この活用資金を持って解散も少し遠い話となり仲間も 3 人増えてサー
クル内も明るく活気を帯びてきており、創立以来の企業見学を(手話で)行う運びと
なりました。

報告

1. 申請書に記載のとおり第一に謝礼金第二に交通費として使用しました。

最大効果を考え 2 つに分けて利用しました。

- 1 つめは、講師への 22 回の謝礼の一部として利用いたしました。

- 2 つめは、認知症老人ホームへの慰労訪問と茨城県立聾学校夏祭ボランティアで利用。

(4 万円を謝礼金に 1 万円を交通費に補助金として利用しました。)

2. 活性化のために民生委員や取手市広報への働きかけも行い始めました。

サークルメンバーを集めての活性化が一番の方法なので先ず仲良く企業見学
を組み横への連動も始めました。サークルの改善してきている雰囲気は
7/16 に研修に参加頂いた貴 NPO の横田様よりご報告頂いたものと思わ
れます。 以上、恐縮ですが「あゆみ」報告書とさせていただきます。

事業名	笑顔のひろばフェスティバル
申請コース (いずれかに ○ を記入)	A. 自助グループづくり支援事業 ③ 「みんなの社会」モデルづくり支援事業
団体名	とりで障害者協働支援ネットワーク
実施内容	会場は、取手市福祉交流センター全館・駐車場：オープニングは太鼓演奏 (1) 1 階 多目的ホール…アトラクション（手話落語・いきいきヘルス体操・太鼓演奏・取手松陽高校吹奏楽演奏・マンドリン演奏）、活動紹介 ロビー…車椅子、高齢者、盲ろう体験・防災コーナー・社協コーナー・福祉機器展示・精神障害相談・小さな家売店・喫茶室 (2) 2 階 引きこもり、登校拒否相談・模擬店販売（豚汁、おにぎり、五目ずし、ケーキ、お茶等）・食堂 (3) 駐車場 バザー・社協コーナー・収穫祭（芋類等販売）・包丁研ぎ
申請書に記載した 「目標」に対する実施 「結果」	当ネットワークのイベントにとどまらず、社協に登録の約200のボランティア団体、行政・社協など関係先に参加を呼びかけたこと。さらには地域情報誌に近隣市町村へも知らせたこと、今回は特に中学生・高校生を対象としたボランティア講座（全5回）を開催して、笑顔のひろばフェスティバル参加へと結びつけたことから約350人もの来場者があり大成功を収めることができた。
申請書に記載した 「目的」に対する 「成果」や地域社会 へのインパクト	近い将来、取手市の一大イベントに発展させるための基礎ができてきた。当ネットワークが中心となって、全てのボランティア団体、市・社協・市議会議員・民生委員など関係者が「協働」でイベントを盛り上げることができた。キャラクター「笑顔ちゃん」の登場で話題になり地域の皆さんもこのフェスティバルのことを知るようになった。
申請書に記載した ように、市民の新たな 「居場所」や「出番」 をつくることにつな がりましたか？	アトラクションやバザー出店を広報で呼び掛け、一般の参加があり、かつ会場で出演者と一緒に楽しく過ごす催しもあり、好評であった。子どもや若者も楽しめるように工夫したので家族連れも多く見られた。食堂・喫茶室の他、各所にソファなどを配置していたため、お茶や軽食をしながら団欒の風景も見られ心温まる雰囲気を感じることができた。

事業実施後の展望や 新たに見えてきた 地域課題	障害者の団体がイベントを実施しても、障害者関係者のみの参加になる場合が多いが、イベントの内容、関係者と協働して進める、学校や企業にも働きかけるなど工夫をし、みんなで行動するならば素晴らしいイベントができることがわかった。今回特に社協とネットワークと一緒に市内の中学校・高等学校を訪問したこと、ボランティア講座を開催したことは良かった。
花王・ハートポケット 倶楽部へ一言	今回の助成金（１５万円）に対し関係者一同感謝しております。お陰でこれまであまり真剣に考えていなかった、関係先との協働、中高校への訪問、一般市民、さらには近隣市町村への呼び掛けなど積極的に取り組み、大きな成果が得られたことは今後の励みになりました。平成２６年度は、当ネットワーク設立１０周年にあたり、一層の発展を期しています。
自己評価 (いずれかに ○ を記入)	☒ A 目標を超える成果を得ることができた ☐ B ほぼ目標とおりの結果となった ☐ C 残念ながら目標を達成できなかった ☐ D その他()
自己評価で C を記入された場合、その理由	

※ 欄の大きさは自由に変えていただいて結構ですが、全体で2ページ以内となるようご配慮ください。



「いなっ鼓会」の演奏による開会



バザー会場



アトラクション会場



「笑顔ちゃん」初登場



松陽高校吹奏楽部



館内は人であふれる



収穫祭も同時開催



農園の野菜販売

「第3回笑顔のひろばフェスティバル」会計報告

(1) 収入の部

花王ハートポケット倶楽部地域助成金	150,000円
お茶売上金	3,200円
ネットワーク負担金	28,303円

合 計	181,503円
-----	----------

(2) 支出の部

印刷用紙代	1,689円
ポスター・チラシ代	33,000円
ポスターカラーコピー代	3,480円
印刷マスター代	1,680円
出演料	14,830円
出演者・ボランティア弁当代	47,100円
お茶仕入代	2,832円
ボランティア講座費用	29,461円
名札代	13,891円
笑顔ちゃん制作費	9,049円
笑顔ちゃんデザイン料	10,000円
雑費	14,491円

合 計	181,503円
-----	----------

平成25年11月20日

とりで障害者協働支援ネットワーク

代表 染野 和成

会計 武藤ほとり

事業名	行政とのパートナーシップで管理運営する自然公園
申請コース (いずれかに ○ を記入)	A. 自助グループづくり支援事業 B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業
団体名	清水洞の上自然を守る会
実施内容	実施活動内容は下記の通りです。 ① ホタル観賞会と生息地の整備 ② ホタルのエサになるカワニナ放流とザリガニ駆除 ③ 小鳥巣箱整備と木製ベンチの設置と修繕 ④ カキツバタ田の整備、花しょうぶ田の整備と植栽 ⑤ 各種講習会への参加 a) 茨城県林業技術センターセンター訪問 b) 大好きいばらき県民会議講座聴講（NPO・地域活動団体の為の事業評価の手法を学ぶ） c) 茨城県生活環境部（茨城の生物多様性を考える集い）参加 d) 那珂市協働のまちづくり推進フォーラム（ポスターセッション）
申請書に記載した 「目標」に対する実施 「結果」	人が交流する場や機会をつくる活動の目標に対して、公園内の整備作業として、年間延べ人数約660名の参加を頂いた。又、7月のホタル観賞会では、近くの小学校の児童・先生、又、茨城大学生物研究会の学生も参加していただき、新聞報道では約1,000名の来場と掲載され十分成果があったと考えます。
申請書に記載した 「目的」に対する 「成果」や地域社会 へのインパクト	活動地の清水洞の上公園（那珂市東木倉）は平成23年4月に那珂市から指定された新しい公園です。ホタル観賞会を始めとする様々なイベントを実施することで、公園としての認知度も高くなり、又その維持管理をしている当会を知って頂くきっかけにもなっています。又、茨城大学2013環境報告書にも取り上げられ知名度UPに貢献できました。
申請書に記載した ように、市民の新たな 「居場所」や「出番」 をつくることにつな がりましたか？	花しょうぶ田の整備や子供広場（約900㎡の芝生と80㎡の観賞池）の整備維持管理をすることで、近くの幼稚園児、ボーイスカウト、茨城大学生物研究会その他団体の野外教育や調査研究場所の提供が可能になっている。

事業実施後の展望や新たに 見えてきた 地域課題	① 那珂市五台地区まちづくり委員会の役員の方からも、平成26年度から当会の幹事に2名参画していただくことになり、益々、行政とのパートナーシップを充実させ活動していくことができる。 ② ホタル観賞会が縁で、日立市滑川ほたるの里づくり委員会と交流でき、今後情報交換等と行い、お互いの地域活性化につなげたいと考える。 ③ 筑波学院大学の地域貢献活動の一つとして、OCP活動（Off Campus Program）のフィールド提供を計画している。
花王・ハートポケット 倶楽部へ一言	花王・グループ会社殿及び社員皆様の社会的支援に対する意識の高さに只々感銘を受ける限りです。ハートポケット倶楽部殿の益々の発展をお祈り申し上げます。
自己評価 (いずれかに ○ を記入)	☒ A. 目標を超える成果を得ることができた B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他()
自己評価で C を記入 された場合、その理由	

※ 欄の大きさは自由に変えていただいて結構ですが、全体で2ページ以内となるようご配慮ください。

いばらき未来基金冠助成プログラム

「花王・ハートポケット倶楽部 地域助成」

平成26年6月

清水洞の上自然を守る会

花王・ハートポケット倶楽部 地域助成 事業結果写真集

ホームページで活動内容報告

（「花王・ハートポケット倶楽部」からの助成金を受けていることも紹介）

<http://www10.plala.or.jp/ics7658/mamorukai.htm>



花しょうぶ田の移植



花しょうぶ田の整備



花しょうぶ開花





子供ひろばの整備(芝生の目土入れ)



ほたる観賞会(立礼でのお茶会)



ほたる観賞会(多くの来場者)



ほたる観賞会(竹あかりで会場演出)



ほたる観賞会(ひょうたん行燈)



ほたる観賞会(DVD:光の芸術家ホタル、暖温帯の森)





茨城大学生物研究会(ライトトラップ)



日立市滑川ホテルの里づくり委員会との交流会



ザリガニ釣り大会(子供会)



ザリガニ釣り大会(子供会)

事業名	小さい命をつなぐモデル地域作り
申請コース (いずれかに ○ を記入)	A. 自助グループづくり支援事業 B. 「みんなの社会」モデルづくり支援事業
団体名	特定非営利活動法人 動物愛護を考える茨城県民ネットワーク
実施内容	TNR 活動とは、野良猫を不妊去勢し元に戻す活動で、生まれた生命を一代限りとする代わりに、地域猫としてあたたかく見守ることを意味する。今回、守谷市ひがし野地区をモデル地区として実施した。ひがし野地区役員会で野良猫の TNR の必要性を説明し、地域猫活動に協力を求めた。賛同が得られ、各班に回覧板が回され、地区住民に周知された。これにより、以前は住民から孤立してひっそり活動していたボランティアも、活動中に住民や子供から声をかけられ、会話がはずむようになり、交流が深まった。また、野良猫問題に班長さんが来てくれるようになった。これまでは隠れるようにやっていたボランティアによる TNR 活動が、住民から応援してもらえるようになったことは、かつてない前進と言える。また、助成金により、この地区の TNR が進み、野良猫が爆発的に増える恐れは無くなった。今後は他から流れてきた野良猫の対応だけで済む。ひがし野地区での経験やノウハウは、今後他地域での地域猫活動のモデルとして活かされる。
申請書に記載した 「目標」に対する実施 「結果」	「目標」：野良猫が多く生息し問題となっている地域において、TNR を一斉に行い繁殖を止め、地域猫として地域で面倒を見る。殺処分を伴わず、地域で猫と人間が調和したモデル地区を作る。 「結果」：地区役員会で説明を行い、理解と賛同を得られた。回覧等により住民に周知されたことによって、住民から暖かい目がボランティアの活動に向けられるようになり、活動に興味を持つ子供や住民が出てきた。一斉 TNR により、野良猫が増える心配も無くなった。今後地域猫のモデル地区として、経験やノウハウが他地域で活かされると考える。
申請書に記載した 「目的」に対する 「成果」や地域社会 へのインパクト	猫は繁殖力の高い生き物で、増えすぎた野良猫問題は各地で毎日のようにある。茨城県の猫の殺処分数が減らない原因の一つである。今回の成果は、住民の理解が得られれば、ボランティアが孤立することなく、住民と一緒に楽しく野良猫問題に取り組めること、小さな命をつなぐ動物愛護が進み、地域で殺処分ゼロを達成できること、そして、猫と人間が調和した地区が作れることを示したと思う。

申請書に記載した ように、市民の新たな 「居場所」や「出番」 をつくることにつな がりましたか？	住民の大半は、「自費で活動するまではしないけど、野良猫が死んだりするのは可哀想」と思っておられる人で、活動に参加する素地はあると言える。活動を理解してもらってからは、いつも会うおじいさんやご近所さんから声をかけてもらったり、会話が弾むようになった。まだ「出番」とまではいかないが、何かきっかけがあれば、活動に参加してもらえると感じている。
事業実施後の展望や 新たに見えてきた 地域課題	ひがし野地区は閑静な住宅街といった佇まいで、住民の動物愛護への関心も比較的高く、地域猫活動がし易い地域でしたが、今後の活動の参考になるいろんな経験やノウハウが得られました。今後はこの経験を元に、地域猫活動を他に広めていきたい。また、折に触れて地域猫活動の広報をひがし野地区で実施することも、活動を維持するために必要と考えています。
花王・ハートポケット 倶楽部へ一言	地域猫活動の普及で必ず問題になるのが、誰がお金を出すの？—ということです。住民の大半は、猫を助けることには賛成でも、お金を出すことには二の足を踏まれます。今回、援助をいただきまして、本当に有難うございました。おかげさまで、今後のモデルとなるような、いい活動ができました。現地のボランティア共々、心からお礼申し上げます。
自己評価 (いずれかに ○ を記入)	A. 目標を超える成果を得ることができた ☒ B. ほぼ目標どおりの結果となった C. 残念ながら目標を達成できなかった D. その他()
自己評価で C を記入 された場合、その理由	

NPO法人CAPIN 地域猫活動報告書(守谷市)

【地域猫活動＝TNR活動をし、地域で見守っていくこと】

まず、TNR活動とは、『今ある生命を全うさせつつ、ゆるやかに野良猫の数を減らす』という、世界的にも推奨されている活動で、動物の好き嫌いに問わず、人道的な方法で野良猫問題の解決を目指すという方法である。『TNR』とは野良猫をTrap(捕獲)して、Neuter(避妊・去勢手術)し、Return(元に戻す)することで、生まれた生命を一代限りとする代わりに、あたたかく見守るということの意味する。本来は、猫を保護して家族探しをすることが一番だが、産み落とされる生命があまりに多く、譲渡するだけでは到底追いつかない。このような中で、まずは、不幸な生命が産まれる『負の連鎖』を根源から絶つために、不妊去勢手術の大切さを伝え、啓発することが重要であり、『地域猫活動』『TNR活動』は、非常に有益な活動と考える。生まれた生命を『処分』するという場当たりの対応ではなく、この活動を通じて、ひとりひとりが今一度、自身の行動を振り返り、『生命とは何か』を考えるきっかけとして欲しい。この活動が、動物の生命を救うことだけでなく、人と人との繋がりを深め、思いやりのある子を育てる社会の実現に貢献できることを願っている。

【モデル地区として守谷市を選定した理由】

茨城県南に位置する守谷市では、都市化が進むとともに野良猫問題が表面化しつつある。つくばエクスプレスの開通とともに、最近になって栄え、新しい街ができた住宅地では、動物愛護に関する関心が高い市民も多く、自費で野良猫の不妊去勢手術を行っている地域住民も少なくない。そこで、今回、守谷市内でも野良猫が多く、また動物愛護に関心の高い住民が在住している『ひがし野地区』を地域猫活動のモデル地区とし、手術を実施、助成することとした。

【守谷市ひがし野地区の実態】

ひがし野地区は、美しい緑に恵まれ、約460世帯の閑静な戸建ての住宅が立ち並ぶエリアである。『森林公園』という、文字通り、『森林』に囲まれた広い公園と隣接している。昔は多くの野良猫がこの森林公園にいたが、現在は心ある個人ボランティアによって世話をされ、ここを棲み家としている猫は全頭に手術が実施され頭数は7匹にまで減った。しかし、未だに仔猫などが持ち込まれることがあるということで、周辺住民から相談が寄せられることもある。一方、住宅街では野良の成猫や、首輪をした放し飼いの猫、判別のつかない猫がいる。動物が好きで何とかしたいと思っている人、どこかで餌だけを与える人、動物が嫌いな人、さまざまいる様子。このまま放置されれば、猫の数があつという間に増えるのは時間の問題という状況だった。

【ひがし野地区の課題、解決策】

■一部の人がTNR活動をしており、またその活動自体はほとんど知られていない。結果、せっかく不妊去勢手術をしても、新しい猫が現れイタチごっこになってしまっている。

→個人が抱える問題ではなく、地域の問題として考えることが必要。また、飼い方についても今一度、飼い主さんたちに振り返ってもらうことが必要。

■飼い猫か野良猫かの判別がつかない猫がいる。

→所有を明確にすることが必要。(茨城県条例が改正され、猫は屋内飼育が努力義務として明記された。)

■TNR活動への理解が少ない為に、「単なる餌やり」と勘違いされ、後ろめたい思いをしている住民(CAPIN会員含む)がいる。

→「誰よりも不幸な生命を減らしたい」と願っているからこそ自費で手術を行い、世話をしながら、小さな生命を見守っているのだということを知ってもらうと共に、「そもそも増やさないためにはどうしたら良いのか」ということ(適正飼養)について、周知することが必要。

【ひがし野地区活動概要】

■飼い主がいないと判別できた猫は順次TNRを実施。

平成25年度、ひがし野地区(森林公園含む)で手術が実施された頭数

オス:10匹

メス:4匹(うち、妊娠猫1匹)

■TNRした(する)猫たちを『地域猫』にするために、地域での話し合いに参加させてもらい、TNR活動について説明。

ひがし野地区の区長さんに事情を説明したところ、野良猫問題については今まで声が届いていなかったのだから知らなかったとのこと。

このような問題があること、またその問題に対して取り組んでいる住民がいることを理解してくださり、役員会で野良猫問題について説明することを快諾していただいた。

→平成26年1月19日、役員会に出席し、TNR活動について説明。

43名の役員のうち、35名程が出席していた。

説明をした主な内容としては、1.野良猫はあっという間に増えてしまうこと、2.不幸な生命が増えるのを未然に防ぐために、ボランティアさんは不妊去勢手術もしていること、3.耳カットは手術済のしるしであり、一代限りの生命を見守っていただきたいこと、である。質疑応答含め30分ほど話しをさせていただいた。質疑の際に、役員の方から、「ぜひいろんな人に知ってもらいたいのので、この内容を回覧で各戸に伝えてみては」という意見があがった。早速、2月10日に回覧板をまわすことになった。また、別の役員の方からは、「事情はわかった。良い取り組みだと思うが、お金の問題もある。誰がやるのかということになる。」という意見もあった。費用の問題は、こちらから強要できないので、まずはこの活動の内容を知っていただくに留め、話し合いを終了した。話しをさせていただいた印象としては、動物の好き嫌いに関わらず、処分はかわいそうと思っている人は多いが、かといって自分が飼っているわけでもないのに多額のお金を出すのはできない、という方が多いという感じだった。しかし、このような場を設けていただき、自治会の方々に前向きに対応していただいたことは収穫であった。

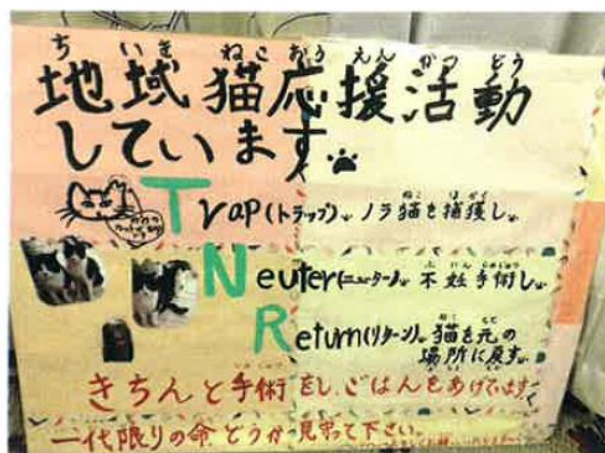
【ひがし野地区での実施効果】

今までは、野良猫のお世話をしている人が後ろめたい思いをしていることが多々あった。しかし、区長さんの理解を得られ、自治会で議題として取り上げて頂いただけでなく、班長さんにも班内で起こった猫問題について間に入っていたことで、前向きに問題解決に向けて取り組んでいただくことができた。問題というのは、飼い主がいるかどうかの判別がつかない猫の存在のことである。今回は、班長さん同席のもと、ボランティアさんと、当該猫がよく出入りしているという情報が寄せられたご家庭の人、の三者で話し合いをしていただくことになった。結果、この猫は、出入りしていたご家庭で屋内飼育してもらうことになった。(元々飼っていた訳ではないが、餌を与えていた猫なので飼ってもいいということになった)。このように前向きな取り組みが進んだことで、後ろめたさを感じていたボランティアさんは、勇気を出して、周辺の人にも声がけし、啓発活動をするようになったとの事。啓発する相手は、いつも会うおじさんや、小学生、ご近所の方、などなど、、、すると、動物が嫌いだろうと思っていた方が、「いつも大変だなと思っていたよ」と理解してくれている人だったことがわかったり、子どもたちと交流が深まったりと、少しずつ、でも確かに、ひがし野地区の動物愛護は前進し始めた。大半の人は、「自費で何とかするまではしないけど、死んでしまうのはかわいそう。」と思っている人ばかりだ。だからこそ、このように地道に説明をしていけば理解してもらえるチャンスも増えていくと思う。そこに金銭的な援助が入れば、私たちのようなボランティアは活動を継続しやすくなる。そういった意味でも、御社の助成金をいただけたことは非常にありがたいと深く感謝している。この取り組みは、不幸な生命が産まれるのを守っただけではなく、地域住民を結びつけるという結果につながった。地域で頑張っているボランティアさんの熱意と、自治会の協力と、地域を応援するこのような取り組みサポートが揃えば、野良猫問題がベクトルを持って大きく前進すると感じた。

【今後の課題】

今後の課題としては『トイレ問題』がある。これは地域猫活動をする際にいつもつきまとう問題でもある。地域猫活動の基本である、『置き餌をしないこと』や、『周辺の衛生環境を保つこと』は以前から遵守されているが、『トイレ問題』については、正直、現段階では十分な体制がまだ整っていない。ひがし野地区内にトイレを用意しているところもあるが、そこで全頭が毎回トイレをしに戻って来ているのかは不明。野良猫は常に自由に移動でき、トイレも複数箇所にあると考えられるので管理が難しいということもある。幸いにも現在はそれほど目立ったクレームにはなっていないが、今後の検討課題としたい。

以下、地域のボランティアさんが自身で作成し、啓発の為に自宅前に貼りだした啓発パネル。通りに面して目立つということもあり、通行人が読んでいるとの事。



以下は、一代限りの生命として住民によって不妊去勢手術され見守られている(＝地域猫)ひがし1匹は交通事故で亡くなってしまった。やはり外にいる猫は事故や怪我、病気で短命である子が多いので、不妊去勢手術したから外に放しても問題ないということではなく、飼い主自身も適正に飼養することが必要である。



